

東大が政策ビジョン研究センター

社会貢献へ意見発信

知の集団が社会の課題解決策を提言。東京大学は14日、シンクタンク機能を持つ政策ビジョン

研究センターの設立を記念したフォーラムを開催する。大学の社会貢献策の一つとして、同センターが同大の知的リソースを集約し、積極的に政策の選択肢の発信や重要問題などの提起を行う。フォーラムで明らかにされる政策提言のテーマや方法について、センター長の森田朗教授に聞いた。

「フォーラムを機に、対外的にも本格化動します。抱負は。」

「小宮山宏総長自ら

が力を入れる、大学ができる社会貢献策の一つとして重要な役割を

持つと認識している。できたばかりの組織なのでまだ成果はないが、フォーラムでどんな組織なのかと、『何ができるか』を報告したい。具体的には、政策に関する研究単位『ユニット』として扱

安全保障などテーマに

策を打ち出すことを問題視する人もいます。「政府に対するスタンスや、個別の組織に益するようなことは避けるよう、精査する。だが、具体策に踏み込まないと社会貢献にはならない。東大全体で社説ではなくユニット長の署名記事として責任を持ち提言していく。また、我々の提言は『こうしろ』でなく、あくまでも選択肢。内容をどう生かすかは相

手次第だ。今後は定期的な刊行物や、ホームページで順次意見を発信していく」

「大学が具体的な政

策を……と森田さん

森田朗センター長に聞く



（石橋弘彰）